

8月大熊町C班

大原理彩子、見生舞、木内佑星、當山天地、田中龍太

～研修に行く前の福島の印象～

- ・ 福島は放射線被曝が凄まじいので怖い、住める環境ではない
- ・ 福島の農産物や水産物は汚染されており、食べると健康に害が出る
- ・ 福島に行くと体に悪影響が出る

～福島の実際～

- ・ 福島で測定した放射線量は他の地域と比較しても大きな差がない。生活できるレベルまで数値が下がっている。
- ・ 出荷されている農産物、水産物は厳しい検査を得ており、安全性が確認されている。

～私が考える福島的发展・未来～

- ・ 今後は福島の放射線量に関する正しい知識を世間に伝えていくべきだ。
- ・ 福島の特産物に若者が興味を引くような外観・内容で宣伝していき流行を作る。

～研修で感じたこと～

- ・ 知らず知らずのうちに福島に対して批判的な先入観を持っていたことに気づいた。
- ・ 偏見を持つのは現場の実際を知らないからであり、事実を知れば批判的な反応は薄れる。

浜通り研修に参加して



- ・新しい建物と古い建物が混在していて地域全体が「復興途中」であると感じた
- ・駅前や主要エリアは賑わっている様子だった一方少し離れると「立ち入り禁止区域」や手つかずの場所が残っていて驚いた
- ・大熊町に活気が戻ったら「復興の象徴」の町として後世に残っていくと感じた

浜通り研修に参加して



- ・地獄沢の土壌と植物の放射能度に相関関係があり14年経過しても食べることをできない数値が検出されたことに驚いた
- ・1Fを視察して未だに1-6号機が残っていることに原発事故の悲惨さを直に感じて復興の大変さを知れた
- ・1Fで働いている職員方のリスクを可能な限り減らしていることに過去からの教訓を生かしていると感じた

浜通り研修に参加して



帰還困難区域内にある水産試験場。
建物の残骸が震災当時のままで残っている。

▶ 帰還困難区域内の視察

- ・ 当時の建物がまったく手を付けられず残っており、住民生活への影響や地元経済へのダメージを肌で感じた。

▶ 福島第一原発の視察（写真なし）

- ・ 爆発した原子炉建屋の剥き出しの姿を見たのが印象的だった。デブリの取り出しの困難さがわかった。
- ・ 入構時のセキュリティチェックの厳重さやALPS処理水の放出方法など、これ以上事故を起こさないためにどんな取り組みを行っているか知れた。

浜通り研修に参加して



大熊駅前に整備された複合施設。
飲食店、シェアオフィス、交流スペースなどが入っている。

▶ 町内の施設見学

- ・ 飲食店街の設置や交流まつりの開催など、活気を取り戻そうとする試みがみられた。
- ・ CREVAおおくまにはキッズスペースがあり、子供連れ世帯の住みやすさへの意識も感じた。

▶ これからの大熊町について

- ・ 商業施設や交流施設の充実化で住みやすい街になっていっていると思う。
- ・ 一方、原発関連以外に大きな産業がなく、人口面でも経済面でも町として持続可能性に欠けるのではないかと感じた。
第一次・第二次産業の育成や誘致、もしくは観光資源の発掘が必要そう。

浜通り研修を通して

得られた所感

- ・被災から15年近く経過し、人々の関心が薄れていっている。
- ・正しい知識を得たことで、目に見えないために、汚染の実感が湧かない放射線への恐怖がより大きくなる。



浜通り研修を通して

これからの復興

内からの復興

被災者が主体

- 元いた人を呼び戻す
- 地域主体のイベント
- 地域コミュニティの創設

外からの復興

国や行政が主体

- 新しい人を呼び込む
- 新たな学校
- 娯楽施設の建設

2つのバランスの取れた復興が大切

浜通り環境放射線研修での学び

放射線について
体系的に学習
＋
サンプリング＆
測定実習

物理

社会

化学

統計

放射線

生物

医学

心理

研修参加前

- ・放射線＝怖い
- ・研修会への参加も少し不安



3, 4年目

- ・尺度について理解する
- ・放射線量の評価の仕方が分かってくる



今年

- ・恐怖感、不安がなくなる
- ・なんとなく「大丈夫だろう」

「正しく怖がる」ことのむずかしさ

ご清聴ありがとうございました